

令和6年度庄原市教頭・事務長研修会

令和6年8月19日（月）14:00～16:35 庄原市ふれあいセンター コパリホール

教頭・事務長として、今後の教育施策の方向性を理解し、教職員への指導を適切に行うなど、校内組織をリードし、マネジメントする力量を高める。

特に、生徒指導等に係る校内連携体制の充実、関係機関との連携の在り方について学ぶことを通して、今後の学校運営の充実を図る。

【講話・演習】「チーム学校 ～改訂生徒指導提要を基にした生徒指導の充実～」

スクールソーシャルワーカー 西田 千加子 氏

- 教育の根幹として「教育振興基本計画」がある。この中で、「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が示されている。「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」とは、自己肯定感や自己実現といった個人が獲得・達成する能力や状態に基づくウェルビーイングと、利他性や協働性といった人とのつながり、関係性に基づくウェルビーイングの両方を向上させていくことである。この考えに基づいて、生徒指導をふくめた教育活動が行われることが大切である。
- 教頭・事務長の役割は「進言」と「指導」である。中学校卒業までに付けるべき力を付けるよう、校内で組織として取り組む必要がある。
- 生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的、主体的に発達する過程を支える教育活動のことである。そのため、常態的・先行的（プロアクティブ）な生徒指導が重視され、児童生徒理解（アセスメント）に基づくことが、適切な指導・支援の充実になる。適切な指導・支援には、スクールソーシャルワーカー（SSW）やスクールカウンセラー（SC）を含めたチーム学校での対応を基本とし、生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援体制をつくる必要がある。
- 常態的・先行的な生徒指導の一環として、SSWなどによる「心の健康」に関わる授業実践もある。



【参加者の感想等】

- ・ スクリーニング会議や保護者ケース会議における組織としての取り組み方が参考になった。新しい生徒指導提要におけるポイントは、生徒指導と教育相談の一体化、ガイダンスとカウンセリング、プロアクティブなアプローチであると理解できた。
- ・ 本校も生徒指導上の課題があるが、担任や一部の先生が抱え込みがちなので、互いに援助要求できる関係性を築いていく必要がある。心に寄り添う生徒指導は、感情面の傾聴を行うということ、要求を受け入れられなくても心を支えてもらっているという傾聴を心掛けたい。
- ・ ウェルビーイングの捉え方として、自分だけの幸せを求めているとは成立できないこと、だれかとつながっていることの大切さを再認識した。生徒指導と教育相談の一体化、チーム学校で学校外ともつながることが参考になった。
- ・ 不登校児童へのケース会議を充実させていく必要があるので、今日の研修を生かして、今までの会議の見直しを行っていく。